

三河商人道

PART
148

株式会社 五万石 藤見屋

代表
取締役 西山 高弘 君

青年部は
「助け合える仲間がいるところ」



有限会社五万石藤見屋さんは、明治28年創業の老舗和菓子店です。西山高弘さんはその4代目にあたります。お店の主力商品「五万石」は岡崎五万石にちなんで初代が名付けた伝統あるものです。康生町の中心部にあったお店は昭和20年の空襲で焼け、現在のお店は昭和27年に再建されたもの。当時は表の道路も未舗装だったそうです。

カウンターに並ぶ商品は一部を除き、すべて西山さんの手作りです。前日夜から仕込みをし、朝7時前から製造をはじめるとのこと。買いに来てくださるお客様のために、元旦からお店を開けて年中無休での営業をしています。お仕事で大事にしていることを尋ねると「お菓子作りで大切なのは『季節感』。和菓子は季節を楽しむ心です。材料にもできるだけ添加物などを使わず自然素材にもこだわっています。また、お客様の生の声を聞くことや、作り手の思いを伝えることも心がけています」というお答えでした。

外で元気に遊んでいた子ども時代の思い出もうかがいました。そのころ秘密基地として遊んでいた甲山の防空壕跡で重大事件の証拠が見つかったことがあり「自分たちも何か取り調べられるのでは？」と警察に出向いた経験もあるとか。城下町岡崎で生まれ育ったことから、西山さんは大の歴史好き。名古屋の大学に通っていた時も大学を自主休講して、奈良などへ歴史散策に行っていたそうです。伊東市の修行先から岡崎に帰って来て、人生がまだ定まっていなかったころ、(有)ワイズプリンセスの吉本慶一さんに誘われたことが青年部入会のきっかけです。その頃の青年部は「人の良いところを吸収したい」という意識が強く、メンバー自身が講師を務める研修会が多く開かれていたそうです。

平成11年度に研修委員会・委員長に就任されました。その頃、西山さんはIT関係が苦手だったため、逆にそれを勉強してオンラインでのチャット会議をテーマとした例会を担当されました。例会趣旨説明では頭が真っ白になってしまってあまり覚えていないが、例会について当時の小山章仁会長に喜んでもらってうれしかったことは覚えているそうです。入会当時、長誉館の深田正義先輩、土筆の加藤千礼先輩に事業への取り組み方をファミリーレストランで何時間も真剣なアドバイスをいただいたことがあり、ありがたかったと語られていました。また、実現はしなかったのですが東海ブロック内にお菓子業者の部会を作ろうとしたことがあり、一緒に活動していた方と今でもお付き合いがあるそうです。

現役メンバーへは、「青年部は休んでもいい。でも、なんとか時間を工面してなんでも首を突っ込んでほしい。何かが見つけられるしステップアップができる」というメッセージをいただきました。



康生通りのど真ん中にある藤見屋さん



老舗の和菓子職人の西山さん



取材スタッフと記念撮影



取材担当/
相互啓発委員会
小野田智幸、小林正和、
苅谷大作、内田浩史